

第3次

伊万里市 食のまちづくり ・食育推進基本計画の概要

計画期間 2018年度(平成30年度)～2022年度

第3次伊万里市食のまちづくり・食育推進基本計画 平成30年3月

計画の位置付け

この計画は、食のまちづくり推進条例の基本方針、食のまちづくり宣言の趣旨および伊万里市総合計画を踏まえた計画であるとともに、食育基本法第18条に基づく市の食育推進基本計画であり、国や県の食育推進基本計画との整合、連携を図るものです。

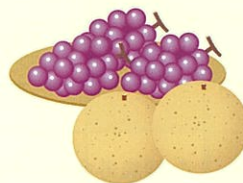
この計画は、食のまちづくりに関する考え方や方向性を明らかにし、食を活かしたまちづくりと市民の健康を自ら守るための食育を総合的かつ計画的に進めるための指針となります。

基本理念

市および市民並びに事業者の協働による食のまちづくりの推進

基本方向

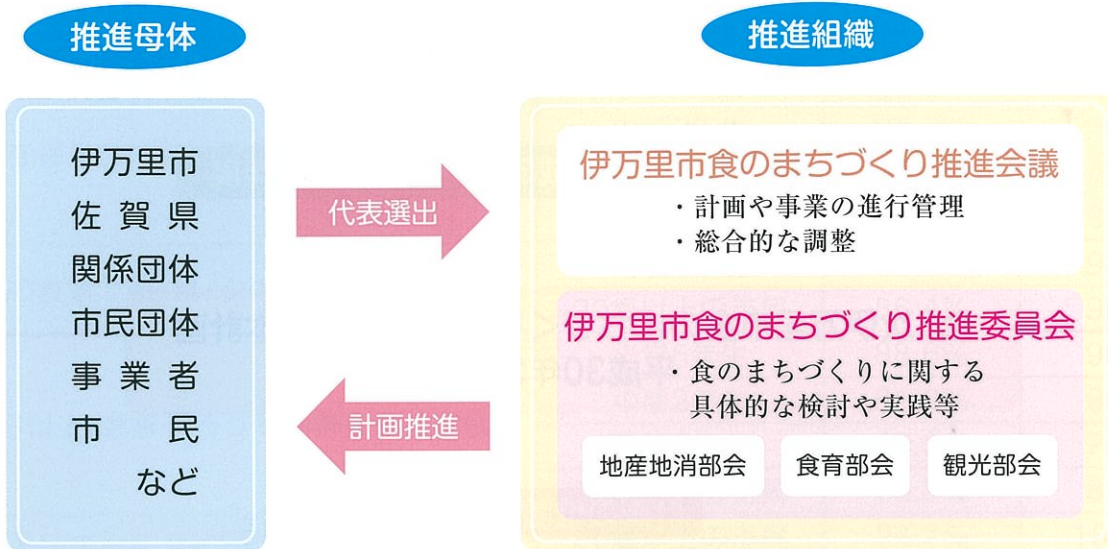
- (1) 『食による市民の心身の健康増進』
- (2) 『食による産業の振興』
- (3) 『食による行きたいまちづくり』
- (4) 『食による活力のあるまちづくり』
- (5) 『食による住みたいまちづくり』



推進体制

食のまちづくりを具体的に推進していくためには、多様な主体の参加と連携・協働が不可欠となります。

そのため、市や市民、関係機関、関係団体をはじめ、「食のまちづくり推進会議」等と相互連携を図りながら、総合的な取り組みを進めます。



施策の展開

施策の方向	施策	具体的な取り組み
食のまちづくりの普及・啓発	1 食のまちづくりの普及・啓発	①食のまちづくりの普及・啓発
農林水産業の振興 および地産地消の推進	1 地産地消の推進	①農村レストランおよび活動拠点の充実 ②保育園や学校給食などにおける地元食材の活用や郷土料理の提供 ③食と農に関わる情報の発信
	2 農林水産物の付加価値の向上	①農林水産加工品開発の推進
	3 安全で安心な農産物の供給	①農産物の生産履歴や流通経路の把握と農薬などに関する情報の管理 ②環境保全型農業の推進
観光および交流の促進	1 「食」と「うつわ」の連携による観光の推進	①「食」と「うつわ」の連携強化
	2 自然や特産物、特産品による観光の推進	①特産品の開発・普及 ②観光資源の開発・観光宣伝活動の強化など ③生産者と消費者とのふれあい交流
食育および健康づくりの推進 (伊万里市食育推進基本計画)	1 生涯食育の推進	①朝食レシピコンテストの開催および伊万里モーニングスタイルの募集 ②保育所保育指針、幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく取り組み ③小・中学校および義務教育学校における年間指導計画に基づく取り組み ④子どものための良い食習慣の普及活動 ⑤食育ボランティア制度の活用 ⑥食に関する啓発事業の開催 ⑦食育に関する情報の発信や意識の啓発 ⑧食への関心を高める取り組み
	2 食文化の継承に向けた食育の推進	①レシピ集「いまりの郷土料理」を使った料理教室の開催などによる食文化の継承 ②学校給食における郷土料理の提供 ③伊万里焼で食する機会の提供
	3 食の安全や環境に配慮した食育の推進	①食の安全・安心を確保するための取り組み ②食の循環や食品ロスなどを意識した食育の推進
	4 健康寿命の延伸につながる食育の推進	①単身者および共働き世帯をターゲットに栄養バランスのとれた料理の提供 ②特定健康診査および保健指導の実施 ③生活習慣病予防のための料理教室の開催 ④妊産婦や乳幼児に関する相談 ⑤高齢者への配食サービスの提供 ⑥健康づくり協力店の普及

各食育の場における取り組み

「食育」は、関係機関や団体の特徴を活かした取り組みと、食育実践の主要な場である、家庭、保育園・幼稚園・認定こども園、学校、地域との連携を図ることで、効果的に推進することができます。

《みんなで取り組むもの》

- ・ 規則的な生活リズムを定着させるため、「早寝・早起き・朝ごはん」運動に取り組みましょう。
- ・ 学校などと連携をとりながら、食事の基本的マナーを身につけ、買い物や料理などのお手伝いを通して食材の選び方や調理法を学びましょう。
- ・ 食に関する情報を見分ける力を身につけましょう。
- ・ つくりすぎない、食べ残しをしない、食品廃棄物をできるだけ出さないように努めましょう。
- ・ 次の世代に郷土料理や技術を伝承するように努めましょう。

ライフステージに対応した食育の取り組み

個人のライフステージを乳幼児期、学童・思春期、青年期、壮・中年期、高齢期の5つの段階に区分し、食育の取り組みを進めます。

取り組み内容	乳幼児期	学童・思春期	青年期	壮・中年期	高齢期
規則的な生活リズムを定着させるため、「早寝・早起き・朝ごはん」運動に取り組みましょう					
健康な歯をつくるためよく噛み、食べた後の歯磨きを実施し、望ましい食習慣を定着させましょう					
家族そろって楽しく食事をとりましょう					
農業体験などに積極的に参加し、命や食の大切さを学び感謝の気持ちを育みましょう					
食に関する情報を見分ける力を身につけましょう					
自分にあった運動習慣を身につけましょう					
子どもの健全な発育・発達に役立つ食生活や食習慣に関心をもち、情報を習得し実践に努めましょう					
生活習慣病予防のために規則正しい食生活を実践しましょう					
食の安全安心や健康に関する知識・技術の習得に努め、研修会などにはできるだけ参加しましょう					
つくりすぎない、食べ残しをしない、食品廃棄物をできるだけ出さないように努めましょう					
かかりつけ医を持ち、健康診断や歯周疾患検診などを受け健康管理に努めましょう					
次の世代に郷土料理や技術を伝承するように努めましょう					

基本計画における主要な数値目標

項目	対象者	現状値 2016年(H28)	目標値 2022年
食のまちづくり宣言の認知割合	20歳以上の市民	42.3%	50%
	高校2年生	17.3%	37%
地産地消の実践割合	20歳以上の市民	50.6%	75%
本市を訪れる観光客数		1,340千人(※)	1,714千人
朝食を毎日食べる人の割合	小学5年生	86.6%	90%
	中学2年生	86.2%	90%
	高校2年生	78.8%	82%
	20歳以上の市民	81.1%	85%
毎日の食事で朝・昼・夕の3回とる人の割合	高校2年生	86.3%	92%
	20歳以上の市民	86.4%	90%
週3日以上、家族そろって食事をする割合	小学5年生	88.6%	90%
	中学2年生	81.8%	85%
	高校2年生	65.3%	70%
	20歳以上の市民	73.5%	80%
メタボリックシンドロームの割合	20歳以上の市民	24.7%	18.5%
主食・主菜・副菜がそろった食事をとっている人の割合	20歳以上の市民	88.0%	93.0%

(※) 2015年(平成27年)の「佐賀県観光客動態調査」の結果を使用

伊万里市食のまちづくり宣言

この伊万里をふるさととして愛する私たちは、美しい海や緑豊かな山や川など、恵まれた自然に包まれて、地域固有の文化と暮らしを大切にしてきました。

しかしながら、価値観や生活様式の多様化に伴い地域内の人のつながりが希薄化し、伝統文化や食に対する関心もうすれてきています。

私たちは、人と人のつながりを大事にし、住みたいまち、住みやすいまち、そして住み続けたいまちをつくるためにも、市民一人ひとりが伝統文化のよさを再発見し、もっと関心を深め、その継承に努めることが大切であると考えています。

山から里、さらに海へと広がる伊万里には新鮮で安全な食材があふれ、料理を盛るすばらしい食の器も身近にあります。

私たちは、伝統文化のなかの食に注目し、身の回りで手に入るものを生かし、食育を通して自然を大切にする心を養うとともに、人間関係を豊かにし、地域の産業の育成を図って、伊万里の発展に努めます。

その実現を目指し、ここに市、市民、事業所の方々のご協力のもと食のまちづくりを進めることを宣言します。

- 一、食育を通じて、自然との共生につとめ、地域内の連携を深めて心豊かなまちづくりに努めます。
- 一、地元で育った豊かで安全な食材を使い、伝統的な料理を守るとともに、さらに工夫を重ね、新しい料理づくりに努めます。
- 一、私たちのまちを訪れてくれる多くの方たちに質の良い料理を提供し、食の器のすばらしさにも触れてもらい、伊万里の名を高めるよう努めます。
- 一、安全で安心な質の良い食材を供給できるように応援します。
- 一、地域や国、信条の違いを超えて、それぞれのもつ食の多様性を認めあい、交流を通して相互の理解を深めながら、共生の心を未来へつないでいきます。

平成17年2月26日 伊万里市

お問合せ：伊万里市役所 まちづくり課
TEL 0955-23-2114